

幸手市立長倉小学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】

●平均正答率

【埼玉県学調】

●学習方略・非認知能力の平均値

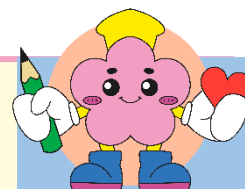
●学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調（平均正答率） 国語・算数ともに全国平均を上回った。	・国語・算数における課題を解決するために、授業内容や展開の工夫する。個別最適な学びを充実する。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力 作業方略・努力調整方略が弱い。自己効力感・自制心・向社会性に弱さがある。 ・学力の伸び 多くの児童が順調に伸びている。小6は上位層が伸びているが、下位層が下がっている。	（令和の幸手スタンダード授業5・LDX事業の活用） ・学習内容の系統性を意識し、学習を積み上げる。 ・特に下位層ではなぜ間違えたのか、どこに躓いているのかがわからないことが多いので、 間違いに向き合う授業づくりと児童がまちがいと向き合うことを習慣化 できるようにする。
③幸手市統一学力調査 ・多くの学級が市、全国の平均正答率を超えているが、高学年になるにつれ、算数の正答率が全国未滿となっている。	・誰とでもかかわりあう、つながる、広げることを意識し、認め合い励ましあえる環境を創り、失敗を恐れず立ち向かう能力を養う。

失敗やまちがいと向き合える児童の育成

学校全体での取組 学びを広げる



❁ リフレクション

テスト等で間違った時にその問題と向き合う時間を確保する。まちがいを分析し、次回につなげるようにする。

❁ 個に応じた指導

児童の状況に応じて、取り出しての個別学習や個別の課題設定により、一人一人が学習に向き合える環境を創る。

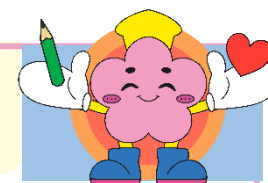
❁ 積み重ね

日々の学習の積み重ねを実感できる授業づくりを実施し、系統的な学びが積み重なっていくことを理解する。

❁ 最後までやりきる

向き合い、やりきることを重視し、個に寄り添うカリキュラムマネジメントを実施する。

落ち着いた学級づくり 拓かれた学級



❁ 環境整備

令和の幸手スタンダードじゅぎょう5を軸に授業を展開することですべての学級で教室の学びの環境が整うようにする。

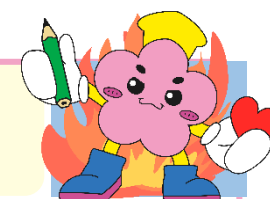
❁ 共通理解・共通行動

日々、教職員の情報共有を徹底し、児童の対応について共通理解、共通行動を実施することで、児童一人一人が理解される場としての学校を創る。

❁ 学年・ブロックの協同

カリキュラムマネジメントの確認を定期的に学年・ブロックで行い、児童の実態に合ったカリキュラム作りを推進する。

学びを深める授業づくり 学びを高める



❁ 令和の幸手スタンダード5

令和の幸手スタンダード5の実施を徹底し、授業内容の充実を図る。

❁ ICTの善き使い手となる

LDX事業を有効活用するとともに、探究的な学習のスタイルを創っていく。

❁ 考える

学び方を学び、自分の学び方を考えられるようにする。

❁ つながり

基礎的・基本的事項が今の学びにつながっていることを理解し、学びを進めていく。

学校間連携・家庭連携 学びをつなげる



❁ 授業と家庭学習のつながり

学校で取り組んでいる「失敗やまちがいと向き合う」ことについて、重要性を発信し、学校と家庭で共通理解できるようにする。

❁ 効果的な家庭学習

効果的な家庭学習について研究し、学年や個に応じた家庭学習を実施できるようにする。

❁ フィードバック

学校だよりで全体的に、個人面談で個別に児童の学びの成果を伝えとともに、課題を共有し、児童がよりよく生きるための方策を家庭とともに考えていく。